

多才なオランダ人元将校が踏査し、描いた地域の風貌

# 静謐なる聖地



## 静謐なる聖地

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所50周年記念事業  
石版風景画に見る十九世紀半ばのパレスチナ・レバノン

[日時] 2014年 5月12日[月]~6月20日[金] 午前10時30分より17時まで(土・日・祝日休場) 入場無料  
[場所] 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所1階資料展示室

エルサレムは、ユダヤ教、キリスト教、イスラームにとって共通の聖地です。古来、この地はとりわけヨーロッパ人にとって憧れの場所であり、多くの巡礼者が訪れ、旅行記を書き、風景画を描いてきました。1851年から翌年にかけて、オランダ人の元海軍将校ファン・デ・フェルデは、この地を旅して旅行記を著し、実測地図を作製し、写実的な風景を描きました。今回はその100点に及ぶ石版画のうち33点と簡略地図を高精度デジタル版で展示します。数々の国際紛争に翻弄される前の静謐なる聖地のすがたを、どうぞご覧ください。

[URL] <http://www.aa.tufs.ac.jp/paleb2014/>

[主催] 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 基幹研究「中東・イスラーム圏における人間移動と多元的社會編成」

[問い合わせ先] 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フィールドサイエンス研究企画センター  
東京都府中市朝日町3-11-1 電話 042-330-5665 e-mail meis@aa.tufs.ac.jp







東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所50周年記念事業

## 静謐なる聖地

### 石版風景画に見る十九世紀半ばのパレスチナ・レバノン

エルサレムは、ユダヤ教、キリスト教、イスラームにとって共通の聖地です。古来、この地はとりわけヨーロッパ人にとって憧れの場所であり、多くの巡礼者が訪れ、旅行記を書き、風景画を描いてきました。1830年代に蒸気船が地中海を広く航行するようになると、さらに多くの人々がパレスチナの地を目指すようになります。1851年から翌年にかけて、オランダ人の元海軍将校ファン・デ・フェルデはこの地を旅して旅行記を著し、実測地図を作製し、写実的な風景を描きました。本展では、100点に及ぶ石版画のうち33点と簡略地図を高精度デジタル版で展示します。数々の国際紛争に翻弄される前の静謐なる聖地のすがたを、どうぞご覧ください。

### 聖地から紛争の地へ

敬虔なプロテスタントであったファン・デ・フェルデは、軍人として身につけた現地調査と情報記録の手法を、聖地エルサレムとその周辺地域に応用したいと熱望し、1846年に退官した後、1851年から52年まで、現在のレバノンからパレスチナにかけての地域を踏査しました。レバノンはこれに先立つ10年ほどの間、マロン派キリスト教徒とドルーズ派との間での衝突が頻発し、踏査の時点では小康状態にありましたが、1860年に大規模な内戦に発展しました。一方、パレスチナでは、1846年にエルサレムの聖墳墓教会の管理権をめぐるキリスト教諸宗派の間で暴力事件が発生し、これが1853年からロシアとイギリス・フランス・オスマン帝国との間で始まるクリミア戦争の引き金となりました。それは、その約70年後から本格化するユダヤ人の入植と、1948年のイスラエル国家成立という激変を経験する前のことでした。

### 1851年、風景画から風景写真への転換期、過去と現在

世界最初の実用的写真技法であるダゲレオタイプが発表されたのは1839年です。ファン・デ・フェルデが聖地を訪れた1851年は「湿板写真」が確立された年で、この時代は「風景画」から「風景写真」への転換期でした。ファン・デ・フェルデが残した作品は、風景を忠実に記録し、複製する「石版画」の最後の時代の作品といえます。本展では、ファン・デ・フェルデが描いた土地で、AA研の研究者たちが撮影したデジタル写真も併せて展示し、現在のこの地とは異なる160年前の静謐なる風貌を想像していただければと思います。



■ヘルメルのピラミッド:カモア=アル=ヘルメル(概観と細部)

多才なオランダ人元将校が踏査し、描いた地域の風貌

1851年 サイダー(シドン)、北側の風景



2012年 サイダー(シドン)、北側の風景

